

令和4年度 山口県医師会男女共同参画部会総会

と き 令和5年3月5日(日) 14:00～

ところ 山口県医師会6階会議室

〔報告：男女共同参画部会部会長 黒川 典枝
山口県医師会常任理事 長谷川奈津江〕

議事

部会長の黒川典枝が令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画(案)を報告し、承認を得た。

1. 令和4年度事業報告

(1) 女性医師が働き続けるための支援

a. 勤務医支援：山口県内病院女性勤務医ネットワークとして、119病院に連絡係をおき、女性医師(総数519名：常勤275名、非常勤244名)に対して、部会の活動内容や勤務継続に有用な情報を発信した。

『応援宣言集 第5版』を発行した。平成29年に発行した第4版までは、山口県内の病院の情報と病院長の応援宣言を掲載していたが、第5版はこれに加えて、山口大学医学部各講座の情報と教授・部長の応援宣言を掲載している。冊子を作成し、関係各所に配布するとともに、ホームページでも公開している。

b. 子育て支援：保育サポーターバンクの運営を行った。現在活動中のサポーターは27名、利用中の医師は21名である。令和4年度の新規相談は5件で、うちサポート成立は4件であった。令和4年11月に『保育サポーター通信』第13号の発行を行った。令和5年3月5日に第12回保育サポーター研修会を開催した。

(2) 女子医学生キャリアデザイン支援

女子医学生インターンシップは新型コロナ感染拡大のため中止した。

(3) 山口県内女性医師の連携

令和4年9月17日に郡市医師会女性医師部会代表者と男女共同参画部会との連絡会議を行い、情報共有を行った。

(4) 広報活動

ホームページの更新を適宜行った。

(5) 介護支援

ホームページの「介護に困ったらここ 介護保険情報」で情報提供を行った。

2. 令和5年度事業計画

(1) 女性医師が働き続けるための支援

a. 勤務医支援：女性勤務医ネットワークの更新を行う。

新規事業として、若い医師と医学生のためのオンラインキャリアサポート「教えて！先輩」を企画する。

b. 子育て支援：保育サポーターバンクの運営・充実・広報活動の継続

・『保育サポーター通信』(第14号)の発行
・保育サポーター研修会(第13回)の開催

(2) 女子医学生キャリアデザイン支援

女子医学生インターンシップを4年ぶりに再開する。

新規事業(再掲)「教えて！先輩」(オンラインキャリアサポート)

(3) 山口県内女性医師の連携

男女共同参画・女性医師部会地域連携会議の開催及びホームページの「郡市の女性医師部会」の更新

(4) 広報活動

ホームページの充実・更新

(5) 介護支援

ホームページの「介護に困ったらここ 介護保険情報」の更新

[文責：黒川 典枝]

特別講演

女性のための漢方

山口大学医学部附属病院

漢方診療部准教授 瀬川 誠

1. 漢方って効くんですか？
 - 1-1. 浮腫、めまい、頭重感
 - 1-2. 関節痛
 - 1-3. 皮膚炎
2. 漢方医学の基本的考え方
3. 漢方では女性関連の症状をどう捉え、どう治療するのか
 - 3-1. 生理関連の諸症状(月経不順・月経困難症・PMS・不妊・精神症状)
 - 3-2. 更年期の身体症状(ホットフラッシュ、ほてり)
4. 最後に

これまで、漢方医療は用語も漢字も読み方が難しく苦手意識があったが、本講演では、治療効果が明らかな写真とユーモラスなイラストのおかげで薬名の難解漢字の組合せも少しだが理解でき、身近に感じられた。

五苓散は、二日酔い防止でお馴染みの利水薬だが、閉塞性動脈硬化症による下肢の浮腫や慢性硬膜下血腫による脳浮腫の改善が報告されている。脳浮腫の改善には、五苓散のアポクリン4阻害作用を介した機序が推定されているようだ。

痛みに対する治療戦略として、水分の偏在を補正、温める、微小循環を改善、ストレスを和らげる、熱をさます、体力の不足を補うというアプローチを組み合わせる。桂枝加朮附湯や防己黄耆湯、越婢加朮湯が効く。

木を見て、森も見る。漢方医学は、陰陽五行説を基盤とする医学体系である。宇宙を構成する全ては陰陽からなり、互いに影響を及ぼし合い、人類も同じと考える。西洋医学とは全く別の視点で患者をみる。

漢方医学からみた女性の特徴は、冷えに敏感、血虚や瘀血を起こしやすい、感情に支配されやすい傾向、血の道症である。血の道症とは、月経困難症や月経前症候群、更年期症候群などの諸症状をいう。女性の年齢と成長過程に伴う諸症状につ

いて、患者を「証というパターンで認識する」という考え方の下に豊富なイラストを用いてさまざまな漢方治療法を紹介いただいた。例えば、更年期障害の症状でも、全身倦怠感、のぼせ、抑うつ、肩こり、不眠、頭痛、四肢の冷え等々14の症状に対するそれぞれの漢方薬を教えていただいた。スライド資料だけでも非常に充実した素晴らしいものであったが、講演後に参加者より録画動画の問い合わせをいただいたほど情報量の多いご講演であった。

瀬川先生は、「女性は、生涯を通じて女性ホルモンのバランスが常に変動するため、気血水のバランスが崩れやすく、身体面、精神面の不調が生じやすいと考えられる、漢方薬は、そのバランスを調整して、症状を緩和する有効な治療薬であり、日常診療でぜひ役に立ててほしい」と講演を終わられた。

この特別講演は、診療だけではなく、会員自身の健康を守るためにも非常に有益であった。瀬川先生のまず一か月使ってみましょうという言葉に背中を押された方も多かったと思う。

[文責：長谷川 奈津江]

特別企画

地域保健のフィールドで活躍する

～「行政医師」という働き方～

コロナ禍となり、行政医師の重要性を医療関係者だけでなく一般の方々も認知するようになって3年余りとなる。しかし、山口県においては、コロナ禍以前から、保健所長を含む行政医師は不足している。行政医師とはどのような仕事なのか、どのような働き方をしているのかなどを学ぶ機会を持ちたいと考え、山口県健康福祉部審議監である石丸泰隆 医師のお力をお借りして、今回の特別企画を実施することとなった。この特別企画の動画は、アーカイブとしてホームページにアップしているので、行政医師に興味のある方々にオンデマンドで見ただけであれば幸いである。当日は3名の行政医師が発表を行った。

1 石丸泰隆医師(山口県健康福祉部審議監)

石丸氏は新型コロナウイルス感染症対策室室長

でもあり、コロナ対策を中心となって担ってこられた医師である。自治医大を卒業し、山口県内のへき地医療機関で勤務し、平成16年から山口県庁に入庁された。その後、柳井・岩国・萩・長門の環境保健所長を務められ、平成29年から県健康福祉部で勤務されている。行政医師（公衆衛生医師）とは、「疾病予防や保健の施策にたずさわって、医学の知識も生かして、多くの人の健康を守る」「災害や感染症などによる健康被害の拡大を防ぐ」「公平・中立的な立場から、組織や制度など社会全体に影響する仕組みを動かす」専門職である。行政医師に必要なスキルとは、医学と公衆衛生の知識、行政の知識とマネジメント能力、コミュニケーション能力と危機管理能力であるが、こうしたスキルは研修やOn-the-Job Trainingで身につけ、伸ばすことができる。保健所は各地域における公衆衛生の拠点機関であり、医師のリーダーシップのもと、保健師、薬剤師、臨床検査技師、衛生検査技師、管理栄養士などの有資格者が協力してチームで業務に対応する。現在の県庁での業務の実施にあたっては、臨床経験が大変役に立っており、また保健所時代にできた多くの方々との「顔の見える関係・信頼関係」が支えになっている。行政と医療現場の双方の声をつなぐ「通訳者」としての役割を果たしたいという思いをもって業務に取り組んでいる。全国保健所長会の研究事業への参加により、公衆衛生テーマの研究もでき、社会医学系専門医制度の研修等により、社会医学系専門医の資格も取得できる。また、ワークライフバランスを維持でき、キャリアアップも目指せる。山口県では、行政医師として、保健所や本庁と一緒に活躍してくれる仲間を求めているので、関心・興味のある方はぜひ連絡してほしい。

2 原田昌範医師（山口県防府保健所長／山口県新型コロナウイルス感染症対策室／山口県立総合医療センターへき地医療支援部）

原田氏は、臨床医を継続しながら行政医師として働く医師である。自治医大を卒業後、山口県立総合医療センターや県内のへき地医療機関に勤務し、現在は、山口県立総合医療センターへき地医療支援センター長も兼務している。これまでの

勤務経験から、へき地医療を持続的にまもる（衛る）には仕組みが必要と考え、第7次山口県保健医療計画のへき地医療部門の策定にも関わった。県の施策と連携して、へき地医療支援部も12年間で2名から14名にスタッフが增加して、山口県のへき地を支えるチームができあがっている。同じく県の施策として総合診療専門医育成を支援し、プログラム設置から12年間で22名がエントリーしてきた。2021年から離島・へき地におけるオンライン診療体制の構築についての研究も行っている。県庁のコロナ対策室にも出務し、2022年からは防府保健所長も兼務している。コロナ禍では、近未来の医療の課題が見える化され、YCISS（Yamaguchi Covid-19 Information Sharing System）をはじめとするICTの活用的重要性も認識された。行政医師は、「ふるさとの命を衛る処方箋」を書くことができる。山口県では臨床医と行政医師の両立が可能であり、手術や薬ではない社会的な処方箋を書くこともできる。臨床の経験を仕組みづくりに活かすことができ、地域共生社会のキーパーソンである。楽しみながらワクワクしながら仕事ができるので、是非ともに働きましょう！

3 本田成美医師（山口県周南健康福祉センター）

本田氏は卒業後8年目の子育て中のママさん医師である。山口大学医学部医学科を卒業後2年間の卒業臨床研修を行い、山口大学の医局に入局し、専攻医兼大学院生として勤務、結婚し長男を出産して、2021年4月に周南健康福祉センターに入職した。その後、次男を出産し育休をとり、2022年10月から復職している。子育てに夫以外に頼れる人がなく、自身の体調も考えると、臨床医師のフルタイム勤務は無理と感じたが、できれば常勤で働き続けたいという希望があり、行政医師という選択をした。保健所長でない行政医師の働き方をワークライフバランスを踏まえて説明された。保健所の勤務は朝8時30分から夕方17時15分遅くとも17時30分までであり、土日や時間外の勤務は月に1～2回で、調整は可能である。仕事内容は、COVID-19対策としては、クラスター施設・自宅療養者の対応や入院調整、

COVID-19以外の感染症予防対策事業、健康づくり事業への参加、骨髄バンク推進事業さらに結核や精神・難病の対応にも時間が許す限り参加している。代替が効く業務内容であり、ワークライフバランスを維持できる職場環境である。子育てを含め、各々の事情に配慮しながら補完しながら業務を継続していく雰囲気のある職場である。夫の協力とさまざまな子育て支援制度を利用しながら行政医師を継続している。医師の専門性を活かしつつ、オン・オフのはっきりした仕事がしたい方、

いろいろな業種や業界と関わってみたいという方は、臨床との兼務も可能なので、医師のキャリアの選択肢の一つとして行政医師を考えてはいかがでしょうか？

[文責：黒川 典枝]

ドクターバンク (山口県医師会医師等無料職業紹介所)

医師に関する求人申込を受理します。ただし、申込の内容が、法令違反その他不適切である場合には受理しません。

なお、医師以外に、看護師、放射線技師、栄養士、医療技術者、理学療法士、作業療法士も取扱います。

求人者又は代理人は、原則として直接当紹介所に赴いて、所定の求人票にご記入の上、お申し込みください。

ただし、直接来所できない時は、郵送でも差し支えありません。

求人申込の際には、賃金、労働人勧その他の雇用条件を明示してください。

最新情報は当会ホームページにてご確認願います。

問い合わせ先：山口県医師会医師等無料職業紹介所

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1

山口県医師会内ドクターバンク事務局

TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527 E-mail：info@yamaguchi.med.or.jp